

非常持出品

避難時に最初に持ち出すものです。下記の品目を参考に家庭の状況にあわせて準備しましょう。
また、両手が使えるようリュックなどにまとめ、取り出しやすい場所に保管しておきましょう。

- 飲料水(500mlペットボトル×2本程度)
- 非常食(3日分程度)
- 貴重品(現金、印鑑、保険証など)
- 衣類(保温性の高いもの)
- 雨具
- タオル、マスク、ティッシュ



乳幼児がいる場合

- 粉ミルク
- レトルトや缶詰の離乳食
- 哺乳瓶

高齢者がいる場合

- レトルト食品(おかゆなど)
- 普段使っている薬

- 常備薬
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 携帯電話と充電器
- ろうそく
- マッチ、ライター

など

●ナイフ

●缶切り

●手袋

●ビニールシート

●生理用品

●携帯用トイレ

など

- 紙おむつ
- お尻ふき
- 着替えの服

- バスタオル
- ガーゼ
- 母子手帳

など

- 老眼鏡
- 入れ歯と入れ歯ケース

- 補聴器
- つえ

など

緊急連絡先

●警察

110

●火事・救急 119

●海上の事件・事故 118

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
様似町役場	(0146) 36-2111	三和医院	(0146) 36-3101
日高東部消防組合 様似支署	(0146) 36-2028	浦河赤十字病院	(0146) 22-5111
様似駐在所 幌満駐在所	(0146) 36-2014 (0146) 38-2004	北海道電力 浦河営業所	(0146) 22-2108
浦河海上保安署	(0146) 22-9118	室蘭開発建設部 浦河道路事務所	(0146) 22-2206

防災無線放送確認用電話

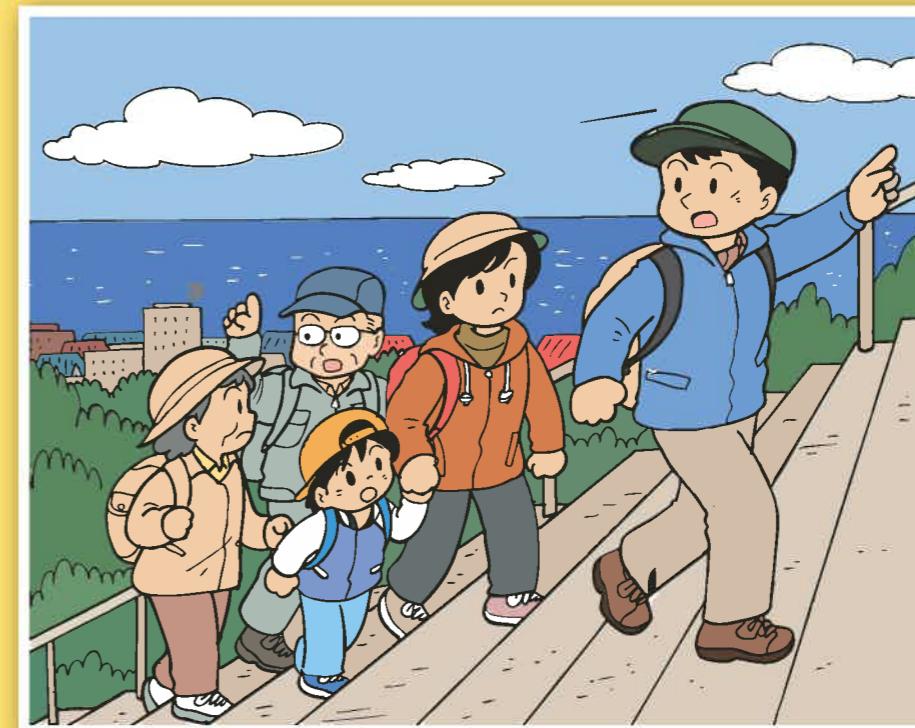
防災無線から放送された内容を電話で確認できます。プッシュ式電話機から次の電話番号へ
ダイヤルしてください。音声案内が流れ、録音された放送内容が再生されます。

(0146) 36-2555

※放送内容の保存期間は、放送から24時間です。

様似町

津波ハザードマップ



この地図は、北海道が実施した津波シミュレーションをもとに、大地震により津波が発生した場合に、浸水被害を受けるおそれのある地域を示した「津波ハザードマップ」です。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、当町にも3メートルを超える津波が押し寄せ、大きな被害を受けています。

津波から命を守るためにには、安全な高台などへすばやく避難するしかありません。

津波が発生したときにすぐに避難を始められるよう、目指すべき高台の場所や、そこまでの経路の確認などにこの地図をお役立てください。

災害に対しては日頃からの備えが大切です。いざというとき迷わず行動できるよう、家庭で話し合っておきましょう。

平成25年3月

様似町

避難の心得

その1 地震に気づいたらまず避難

震源地が近い場合は、予想よりも短時間で津波が押し寄せるおそれがあります。

地震の発生に気づいたときは、テレビ・ラジオ、防災無線などで情報を集めることができます。

津波警報などをすぐに確認できない場合は、まず避難を優先し、安全な場所に着いてから正確な情報を得るようにしましょう。

その2 より「高いところ」を目指す

津波の危険を避けるには、近くにある高台等へいち早く登り、浸水のおそれのある区域からできるだけ早く離れることが重要ですが、津波は自然現象ですので、想定を超える規模で起こるかもしれません。

目標とした避難場所に到着しても気を抜かずに、さらに高い所を目指すなど最善の行動をとるよう心がけましょう。

その3 道路の通行規制に注意する

津波警報が発表されたときは、浸水が予想される地域の道路は通行が規制されることになっていますが、全面的に通行止めになるのではなく、浸水の危険のある地域へ入っていくことを禁止する『進入規制』が行われます。

このため、海岸沿いから高台などへ避難する方向には通行することができますが、逆に海へ近づく方向に行くことはできません。

ただし、その場合でも道路上に人員配置等がされていないことがありますので注意してください。

その4 原則として避難に車は使わない

避難は、徒歩で行うのが基本です。多くの人が車で避難しようとすると渋滞が発生し、身動きが取れなくなるおそれがあります。地震によって道路が壊れたり、付近の建物が倒壊するなどして、車両が通行できなくなっているかもしれません。

次のような場合を除いて、車での避難はできるだけ控えるようにしてください。

- 体が不自由な方など、移動が困難な人の場合
- 避難場所までの距離が遠く、徒歩では避難が間に合わない地域の場合

災害用伝言ダイヤル

災害時には、安否確認などの通話が殺到し、被災地で電話がつながりにくくなることがあります。

そのようなときには、NTTが提供する「災害用伝言ダイヤル」を利用してください。

電話から「171」をダイヤルし、案内に従って伝言の録音・再生を行うことができます。

サービスの開始や利用条件は状況に応じてNTTが決定し、テレビ・ラジオ・インターネット等を通じてお知らせします。

録音 **171 → 1 → 0146 ()**

再生 **171 → 2 → 0146 ()**

市外局番から自宅などの電話番号をダイヤル

その5 非常持出品を準備しておく

避難する場合にすぐに持って出られるよう、必要なものを非常持出品として普段から準備し、取り出しやすい場所に保管しておきましょう。

裏表紙に記載の品目例を参考に、それぞれの世帯構成に合わせて必要なものを用意してください。

また、品物によっては古くなっていないか、点検が必要なものがありますので注意しましょう。

その6 津波警報等に注意する

気象庁から発表される津波に関する情報には、下記のようなものがあります。

津波警報・大津波警報が発表されたときは、避難対象地域のかたはすぐに避難を始めてください。

また、警報が解除されるまでは避難場所に留まり、海には絶対に近づかないでください。

津波注意報の場合は、陸上まで浸水するおそれは少ないと思われますが、海岸や海中にいる人は大変危険ですので、ただちに海から離れてください。

津波警報・注意報

種類	予想される津波の高さ	発表のしかた		サイレン
		数値での発表	巨大地震の場合	
大津波警報	10m < 高さ	10m超	巨大	3秒吹鳴
	5m < 高さ ≤ 10m	10m		3秒吹鳴
	3m < 高さ ≤ 5m	5m		2秒休止
津波警報	1m < 高さ ≤ 3m	3m	高い	5秒吹鳴
	20cm ≤ 高さ ≤ 1m	1m		6秒休止
津波注意報	20cm ≤ 高さ ≤ 1m	(表記しない)	(繰り返し)	10秒吹鳴

*マグニチュード8を超える巨大地震の場合、最初の津波警報では予想される津波の高さを「巨大」、「高い」という言葉で発表します。

津波予報区

津波警報等の発表は、「津波予報区」という地域ごとに行われます。

様似町は、「北海道太平洋沿岸中部」に含まれます。



避難の心得

その7 避難勧告等があったときはすぐに避難を始める

災害により人的被害の発生するおそれがあるときは、町は対象となる住民に対し、避難勧告または避難指示を発令します。

避難指示は、避難勧告より切迫した状況のときに用いられます。

これが発令されたときは、すぐに避難を始めてください。

また、危険な状況になるまで時間がある場合は、避難準備情報を事前に出すことがあります。

種類	発令される状況	住民に求められる行動
避難準備情報 (要援護者避難情報)	場合によっては避難勧告等の発令が予想されるため、事前に避難の準備を呼びかけるもの (例)遠方で地震が発生し、数時間後に津波が押し寄せるおそれがある	・いつでも避難できるよう準備をしてください。 ・避難に支援を要する方やその支援者は、避難行動を始めてください。
避難勧告	被害の発生する危険性が明らかに高まった状況 (例)津波警報が発表された	・すみやかに避難を始めてください。
避難指示	被害の発生する危険性が非常に高まった、あるいはすでに発生した状況 (例)大津波警報が発表された	・直ちに避難しなければなりません。

その8 自身の安全を第一に、周囲の人への支援も

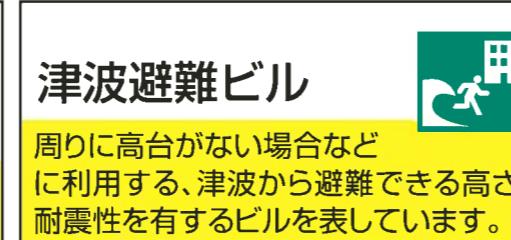
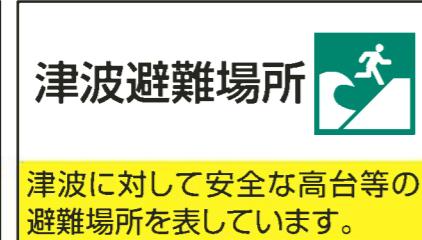
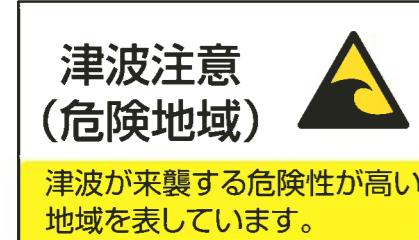
避難の際には落ち着いて、まず自分の身の安全を図ることを第一としてください。その上で、周囲に援助を必要とする人がいたときには、できるかぎり支援を行ってください。

避難時に留意すること

- 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める。
- 非常持出品を用意し、家族や隣近所にすぐに避難するよう声をかける。
- 高齢者や障がい者など、ひとりで避難することが困難な人を支援する。
- けが人がいた場合は、最小限の応急手当を行い、まわりの人と避難を支援する。
- まだ避難していない人や、避難場所がわからない人に声をかける。
- 時間的な余裕が少なくなったら、周囲の人にも声をかけながら、一目散に避難する。

津波避難に関するマーク

津波や津波避難に関する統一的なマークが次のように定められています。



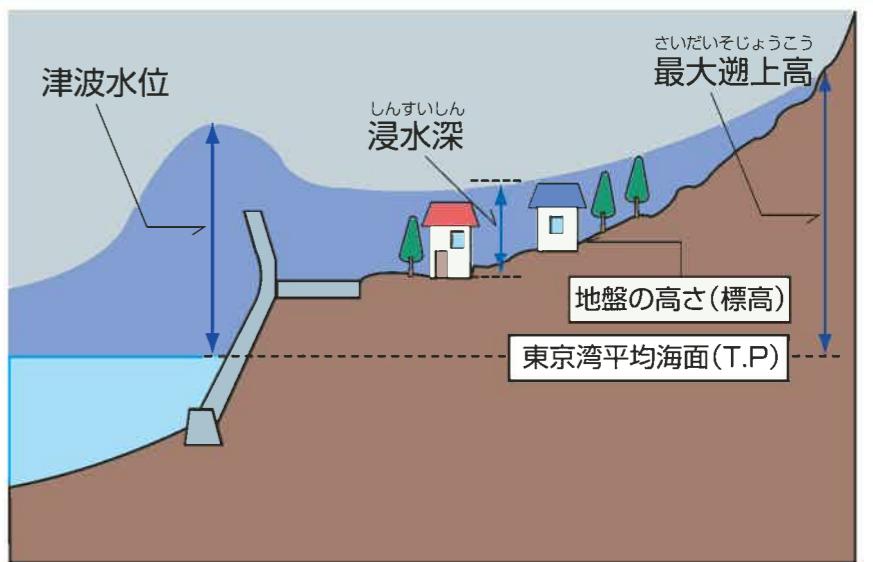
津波浸水予測図の見かた

最大クラスの津波が様似町に押し寄せた場合に、浸水すると予想される範囲が、地区別の地図に表示されています。

また、そのときに予想される水の深さ(浸水深)ごとに色分けがされています。

津波警報等が出されたときは、この浸水予想範囲の外側を目指して避難してください。

それぞれの地図に表示されている矢印は、避難する際のおよその方向を表しています。避難先やそこまでの経路を考えるときの参考としてください。



津波避難場所

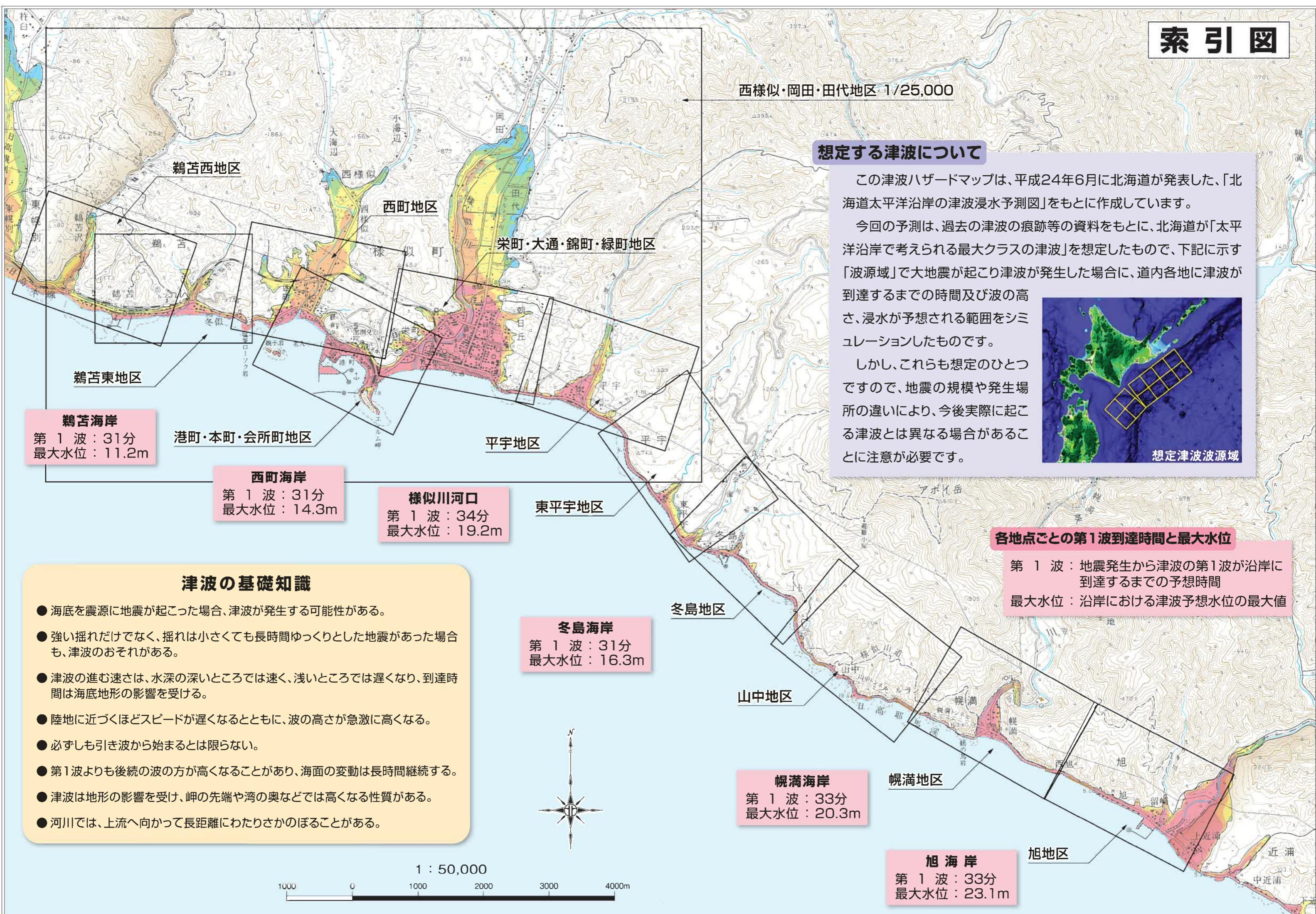
津波から避難する際に目指す高台等として、様似町では次の場所を指定しています。まずはこれらの場所を目標に一時避難し、可能であればさらに高いところへ向かって移動してください。

地区	No	名称	標高	地区	No	名称	標高
鵜苦	①	鵜苦稻荷神社境内	26m	栄町	⑯	様似町葬斎場	78m
	②	鵜苦高台	60m以上		⑯	栄町公営住宅団地	26m以上
西様似	③	西様似畜産センター	10m	⑰	岡田共立興産高台	26m以上	
西町	④	法耀寺	22m	大通・朝日丘	⑱	日本電工裏山	25m以上
	⑤	日本巣牧場高台	30m以上		⑲	様似中学校裏山	25m以上
	⑥	西町第2会館	25m	岡田	⑳	岡田生活館	24m
潮見台・本町	⑦	観音山スポーツ公園	40m	田代	㉑	田代研修センター	21m
	⑧	本町裏山	58m		㉒	西平字高台	77m
	⑨	住吉神社	15m		㉓	平宇共同墓地	46m
	⑩	忠靈塔広場	20m		㉔	アポイ山荘	80m
	㉑	等瀬院	16m	宇	㉕	アポイ樹木園	23m以上
	㉒	法敬寺	16m		㉖	冬島高台広場	35m
	㉓	智教寺	13m		㉗	旧オリビン採石場	50m以上
	㉔	本町3丁目高台	43m	冬島	㉘	国道沿い山側高台	25m以上
旭	㉙	大通第1団地5階建	14m(5階床面)		㉙	旭生活館	20m
	㉚	旧旭生活館裏山	25m以上		㉚	旧旭生活館裏山	25m以上

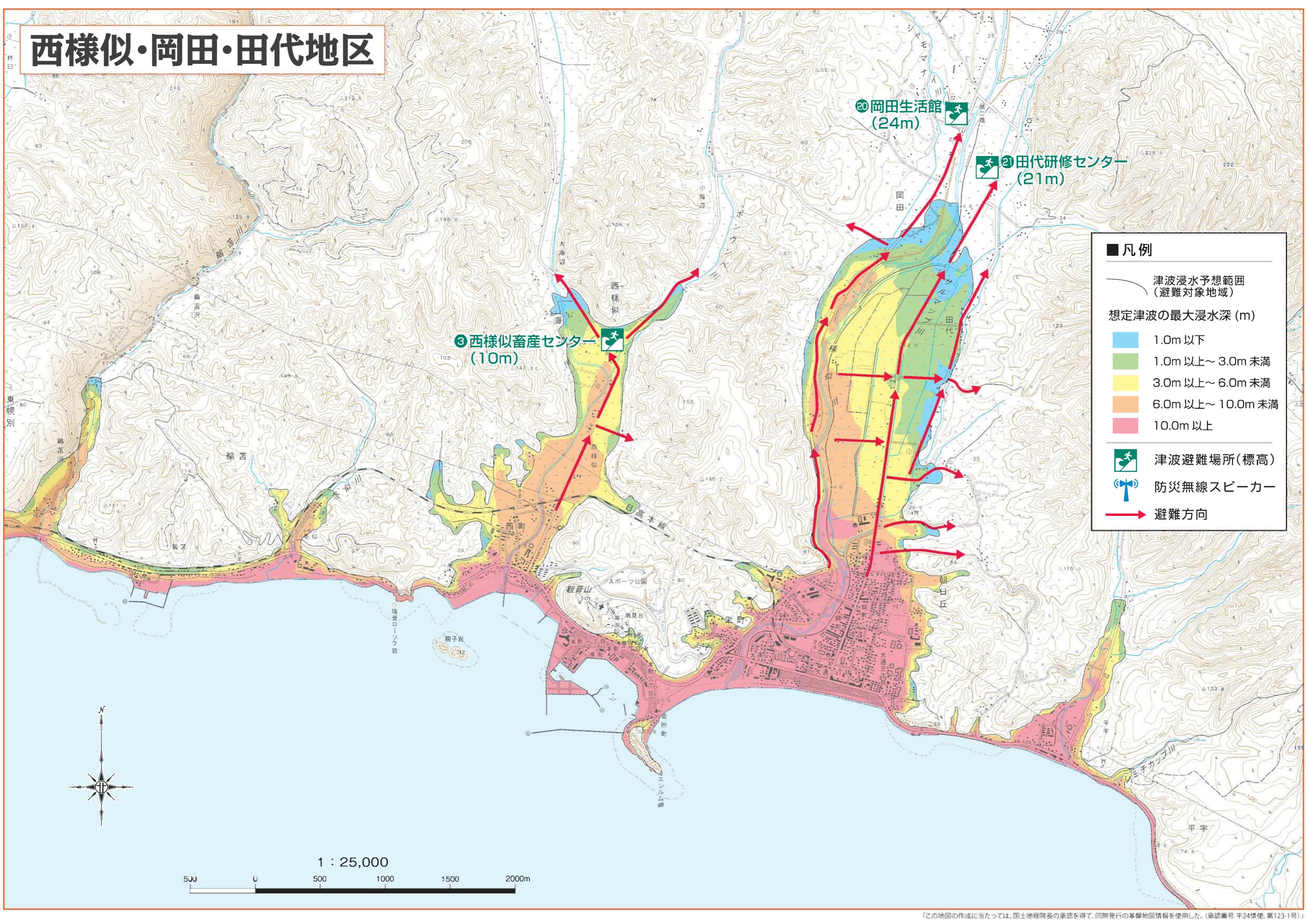
津波避難ビル

津波からの避難は高台へ向かうのが基本ですが、万一逃げ遅れてしまったときは、この建物の上層階へ緊急避難してください。

索引図



西様似・岡田・田代地区



鵜苦西地区



■凡例

津波浸水予想範囲
(避難対象地域)

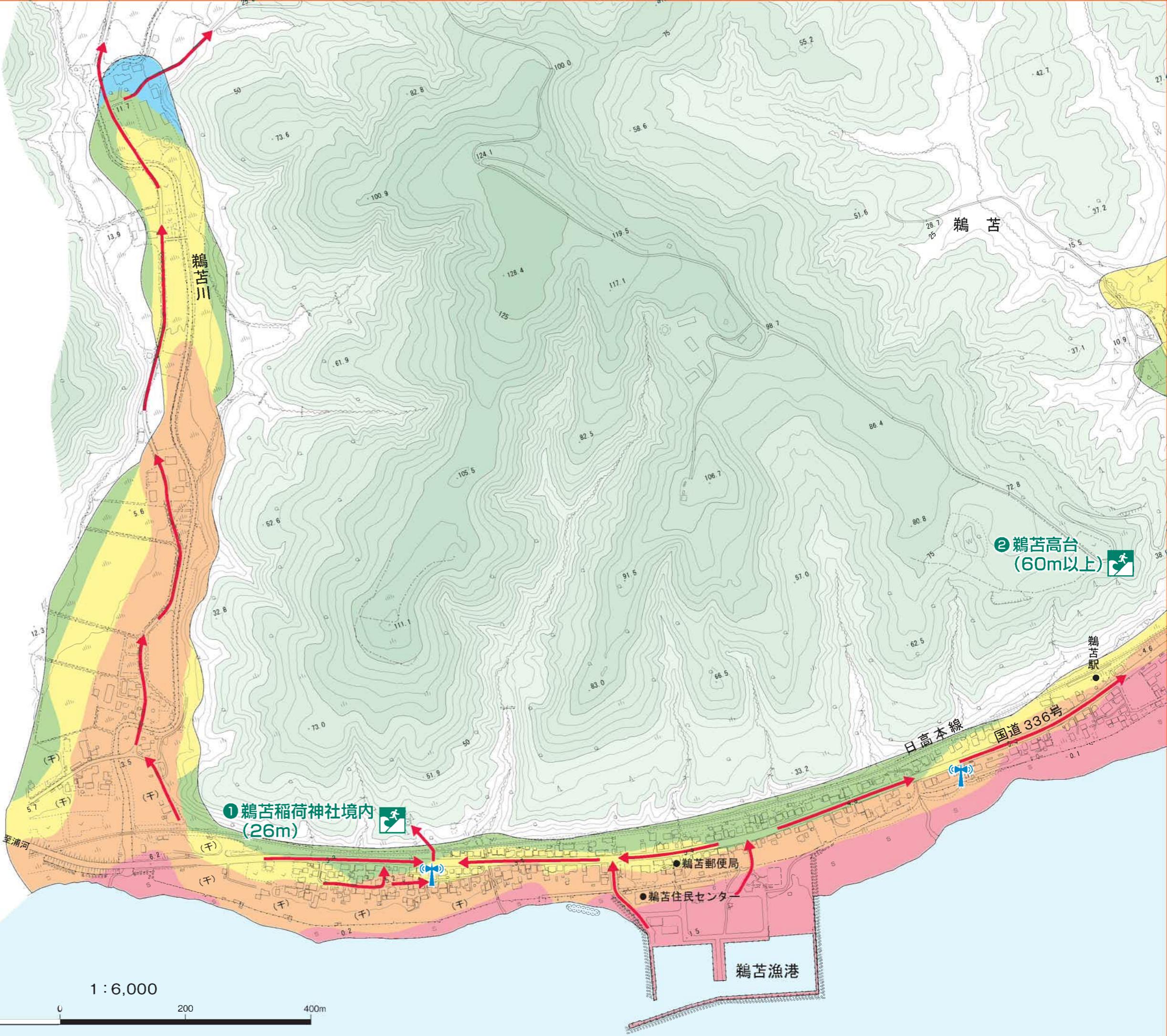
想定津波の最大浸水深 (m)

1.0m 以下
1.0m 以上~ 3.0m 未満
3.0m 以上~ 6.0m 未満
6.0m 以上~ 10.0m 未満
10.0m 以上

津波避難場所(標高)

防災無線スピーカー

避難方向



鵜苦東地区

■凡例

津波浸水予想範囲
(避難対象地域)

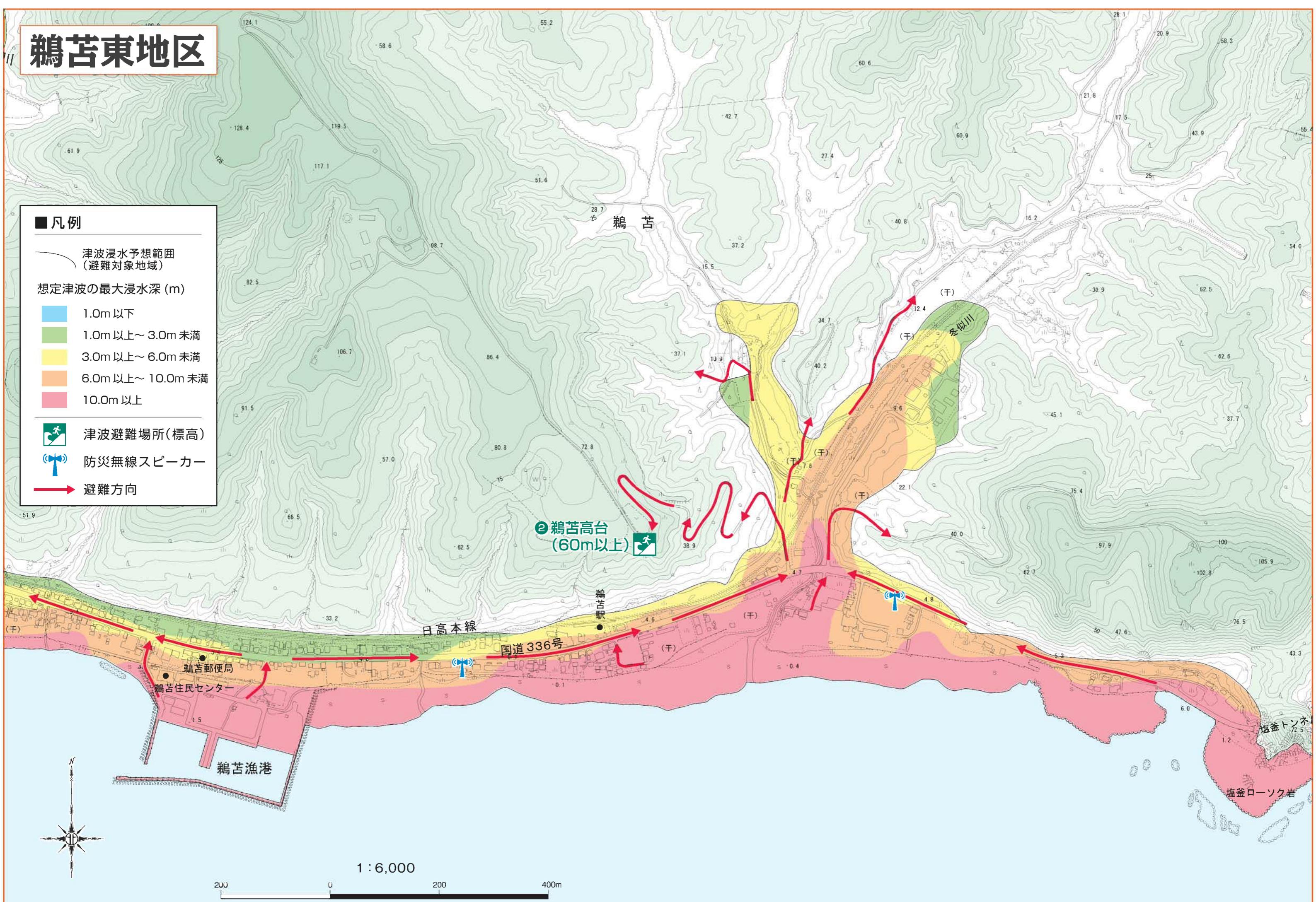
想定津波の最大浸水深 (m)

1.0m 以下
1.0m 以上～3.0m 未満
3.0m 以上～6.0m 未満
6.0m 以上～10.0m 未満
10.0m 以上

津波避難場所(標高)

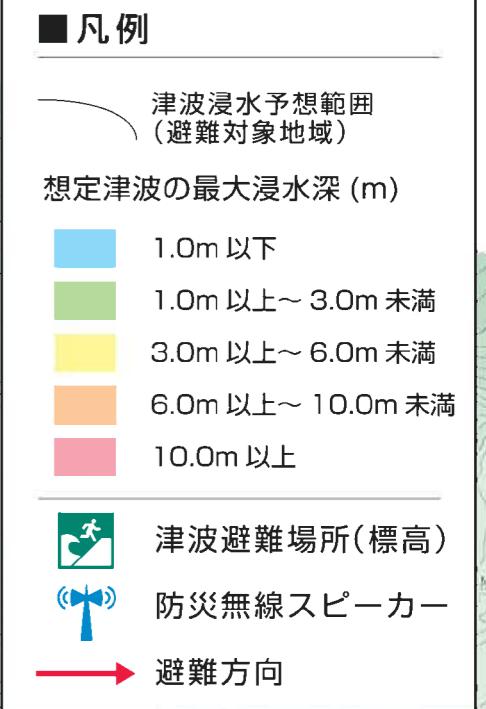
防災無線スピーカー

避難方向



西町地区

 至 西様似畜産センター



⑤ 旧本巣牧場高台 (30m以上)

④法耀寺(22m)

⑥西町第2会館
(25m)

⑦ 観音山スポーツ公園 (40m)

⑯ 様似町葬斎場
(78m)

蓄滞院(16m)

12 法敬寺

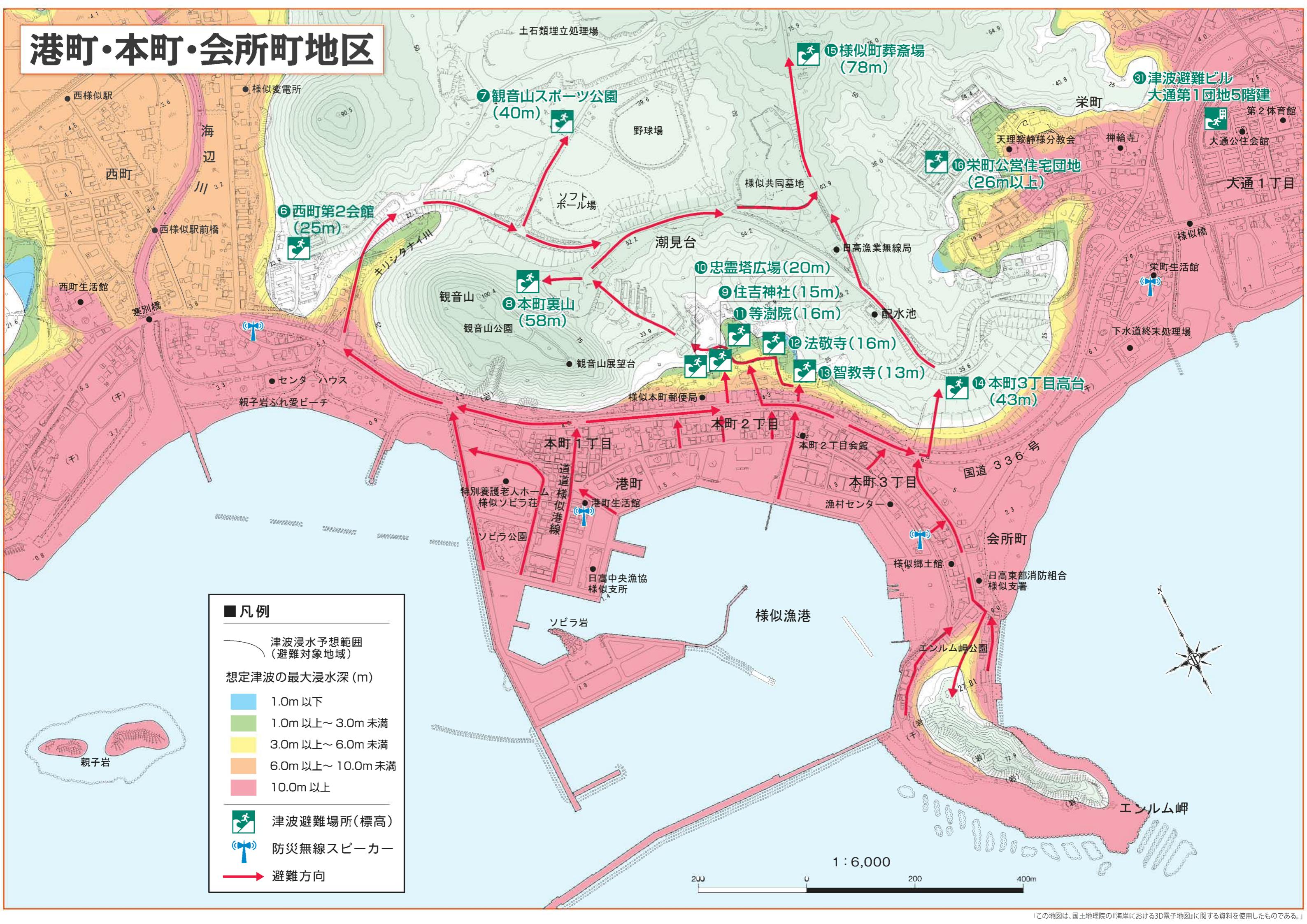
(YOMI)

⑬ 智教寺(13m)

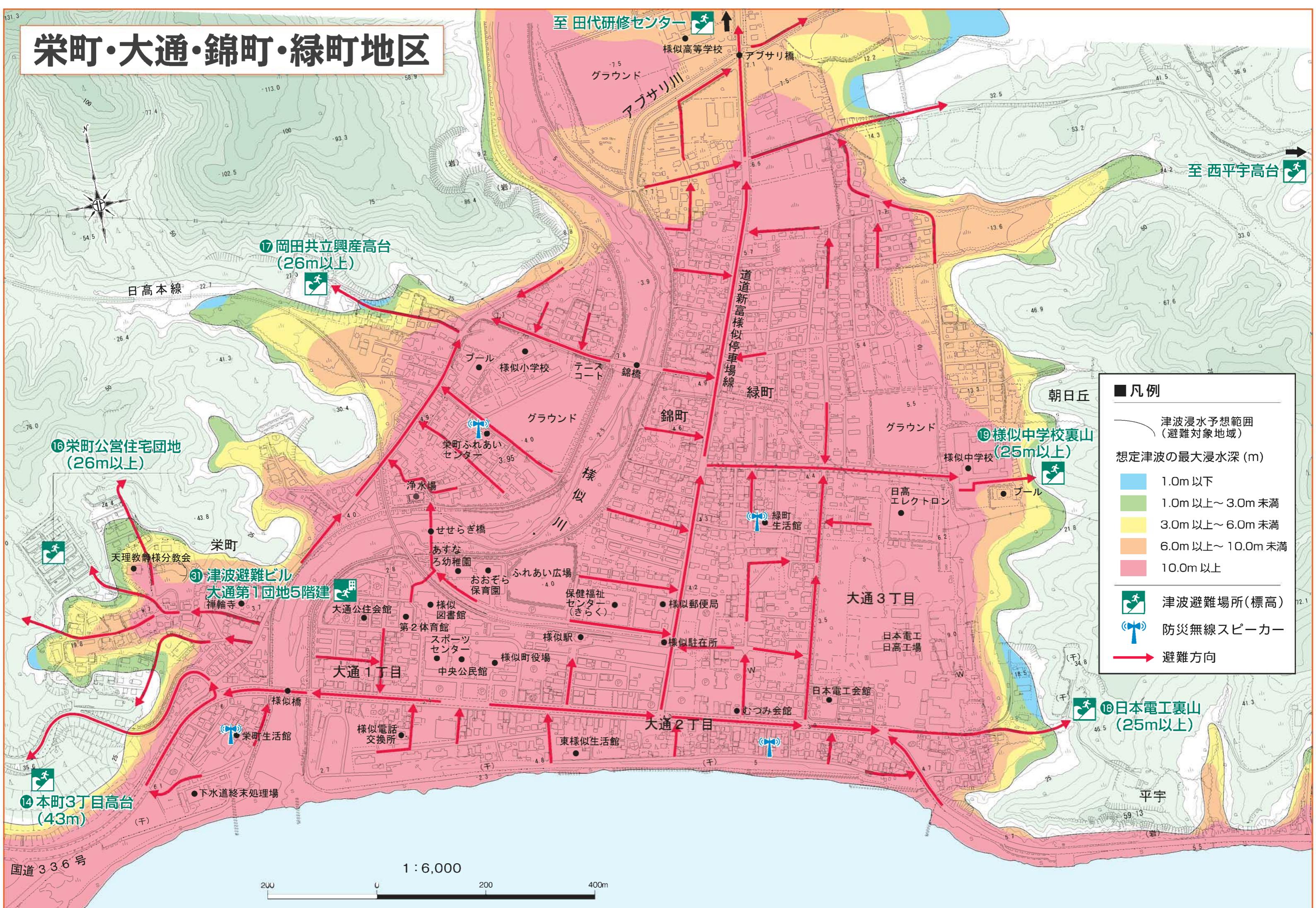
海岸における3D電子

この地図は、国土地理院の「海岸における3D電子地図」に関する資料を使用したものである。

港町・本町・会所町地区



栄町・大通・錦町・緑町地区



平宇地区



22 西平宇高台
(77m)

23 平宇共同墓地
(46m)

平宇

1 : 6,000

200 0 200 400m

■ 凡例	
	津波浸水予想範囲 (避難対象地域)
	想定津波の最大浸水深 (m)
	1.0m 以下
	1.0m 以上 ~ 3.0m 未満
	3.0m 以上 ~ 6.0m 未満
	6.0m 以上 ~ 10.0m 未満
	10.0m 以上
	津波避難場所(標高)
	防災無線スピーカー
	避難方向

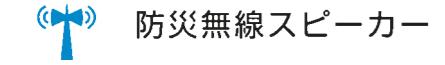
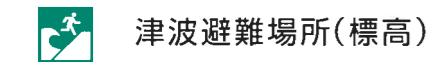
東平字地区

■ 凡例

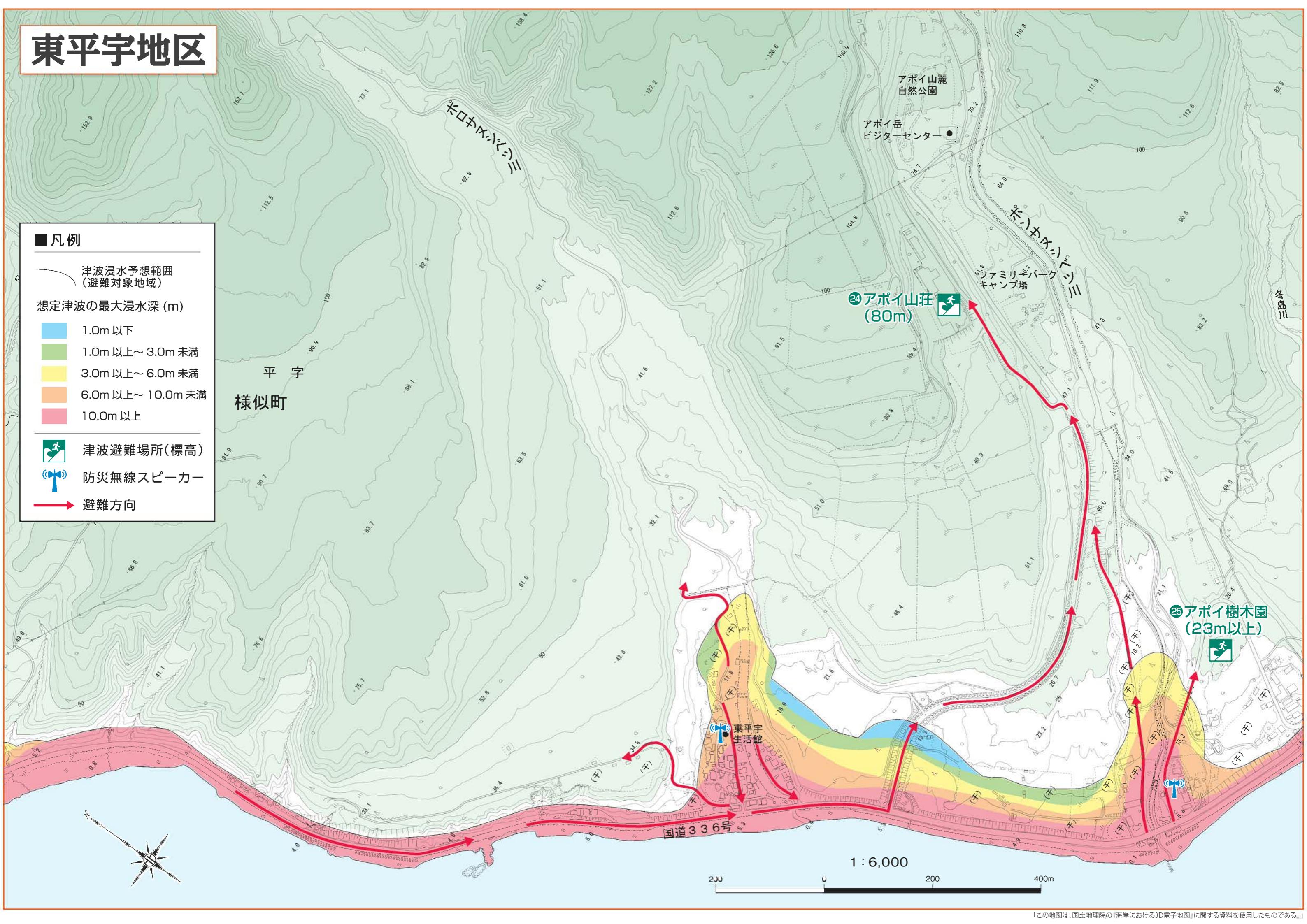
津波浸水予想範囲 (避難対象地域)

想定津波の最大浸水深 (m)

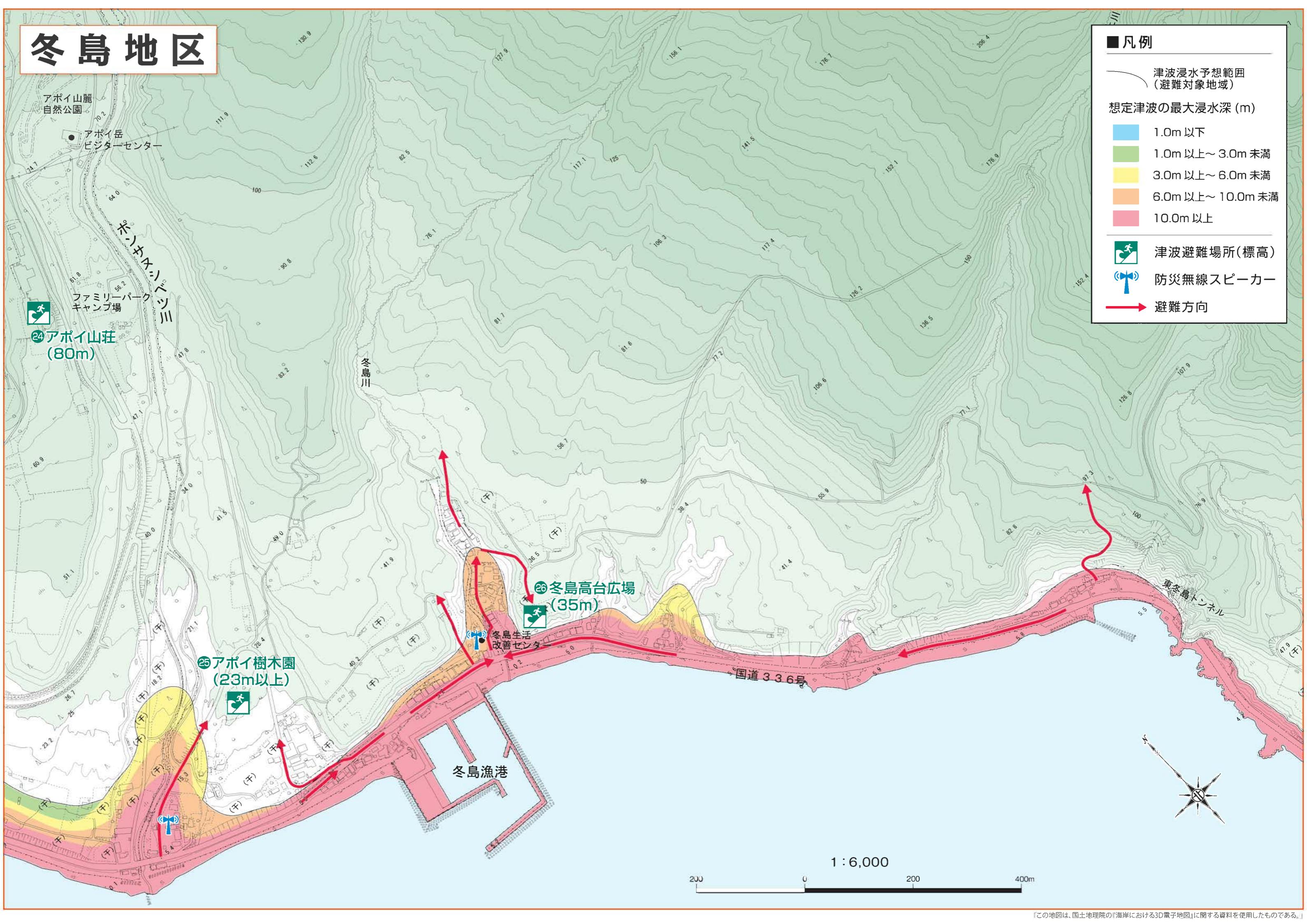
	1.0m 以下
	1.0m 以上～3.0m 未満
	3.0m 以上～6.0m 未満
	6.0m 以上～10.0m 未満
	10.0m 以上



→ 避難方向



冬島地区



山中地区

■凡例

津波浸水予想範囲
(避難対象地域)

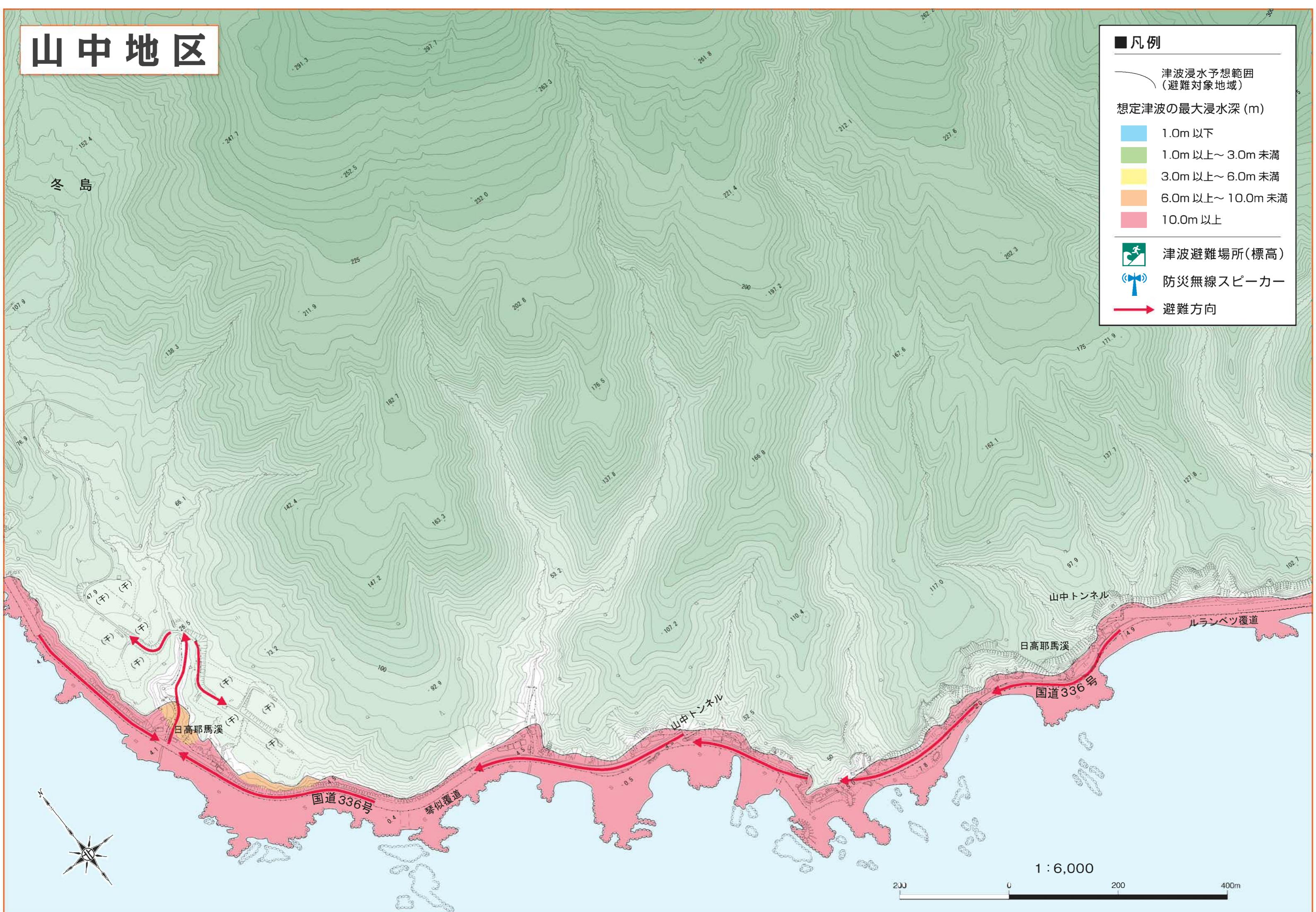
想定津波の最大浸水深 (m)

1.0m 以下
1.0m 以上~ 3.0m 未満
3.0m 以上~ 6.0m 未満
6.0m 以上~ 10.0m 未満
10.0m 以上

津波避難場所(標高)

防災無線スピーカー

避難方向



幌満地区

■凡例

津波浸水予想範囲
(避難対象地域)

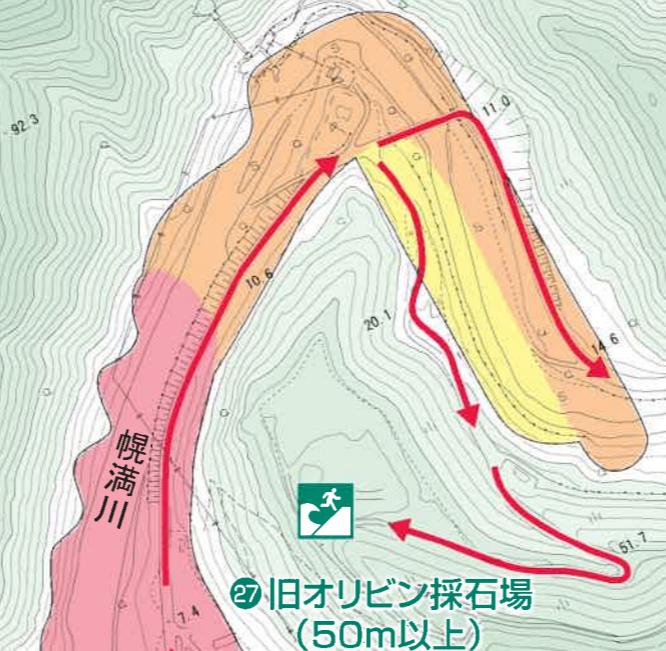
想定津波の最大浸水深 (m)

1.0m 以下
1.0m 以上~ 3.0m 未満
3.0m 以上~ 6.0m 未満
6.0m 以上~ 10.0m 未満
10.0m 以上

津波避難場所(標高)

防災無線スピーカー

避難方向



②旧オリビン採石場
(50m以上)

幌満トンネル

鶴の鳥岩

幌

満

幌満コミュニティーセンター

幌

満

郵便局

幌

満

駐在所

幌

満

橋

幌

満

トン

ネ

ル

幌

満

橋

国道336号

西旭

道

1 : 6,000

200 0 200 400m



旭地区

■凡例

津波浸水予想範囲
(避難対象地域)

想定津波の最大浸水深 (m)

1.0m 以下
1.0m 以上~ 3.0m 未満
3.0m 以上~ 6.0m 未満
6.0m 以上~ 10.0m 未満
10.0m 以上

津波避難場所(標高)

防災無線スピーカー

避難方向



1 : 6,000

200 0 200 400m